

17:41 そのペリシテ人は盾持ちを前に立て、ダビデの方にじりじりと進んで来た。
 17:42 ペリシテ人は、ダビデに目を留めて彼を見つめ、彼を蔑んだ。ダビデが血色の良い、姿の美しい少年だったからである。
 17:43 ペリシテ人はダビデに言った。「おれは犬か。杖を持って向かって来るとは。」ペリシテ人は自分の神々によってダビデを呪った。
 17:44 ペリシテ人はダビデに言った。「さあ、来い。おまえの肉を空の鳥や野の獣にくれてやろう。」
 17:45 ダビデはペリシテ人に言った。「おまえは、剣と槍と投げ槍を持って私に向かって来るが、私は、おまえがそしたイスラエルの戦陣の神、万軍の【主】の御名によって、おまえに立ち向かう。
 17:46 今日、【主】はおまえを私の手に渡される。私はおまえを殺しておまえの頭を胴体から離し、今日、ペリシテ人の軍勢の屍を、空の鳥、地の獣に与えてやる。すべての国は、イスラエルに神がおられることを知るだろう。
 17:47 ここに集まっているすべての者も、剣や槍がなくても、【主】が救いをもたらすことを知るだろう。この戦いは【主】の戦いだ。主は、おまえたちをわれわれの手に渡される。」
 17:48 そのとき、そのペリシテ人はダビデの方に近づき始めた。ダビデは、すばやく戦場を走って行き、ペリシテ人に立ち向かった。
 17:49 ダビデは手を袋の中に入れて、石を一つ取り、石投げでそれを放って、ペリシテ人の額を撃った。石は額に食い込み、彼はうつ

ぶせに地面に倒れた。

ダビデは死の危険を冒してペリシテ人ゴリアテに立ち向かいました。誰の目にもダビデが簡単に殺されると見えたでしょう。しかしダビデには勝算がありました。それは彼が「イスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって」戦うからです。彼の確信がどこから来るのかというと、それは自分自身の動機にありました。

どんなことでも主のためにという動機で戦うなら、そこに勝算があるのです。当然チャレンジすることも同じでしょう。逆に自分の欲や名声や満足ののためにするなら、どんなにゴリアテのように強い者でも敗北が待っているのです。

またダビデは敵の前に立つという危険に自分をさらしました。「走って行き」とありますから、そこには恐れや迷いはなかったでしょう。だからこそ勝機を逃がさなかったのです。

主のための戦い・チャレンジと信じるなら、恐れていないで、勇気を持って立ち向かいましょう。本当の勇気とは主の勝利を信じることから生じます。そして主の勝利を信じることは、主のための戦いという自分の純粋な動機から生まれるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

